



2024年度ミクロネシア諸島 自然体験交流事業

実施報告



主催：独立行政法人国立青少年教育振興機構

後援：外務省・文部科学省・マーシャル諸島共和国・ミクロネシア連邦・パラオ共和国

令和6年9月発行

事業趣旨

日本とミクロネシア諸島の国々の青少年の国際交流を通して、グローバル社会に対応した高い国際感覚を備えた青少年を育成することを目的としています。

受入事業

■日程

令和6年6月23日(日)～7月2日(火) 9泊10日

■招聘参加者(10歳～14歳)、随行者

マーシャル諸島共和国……………参加者24名 随行者 4名 計28名
 ミクロネシア連邦……………参加者48名 随行者 8名 計56名
 パラオ共和国……………参加者12名 随行者 2名 計14名
 合計……………参加者84名 随行者14名 計98名

■地方プログラム

長野県(国立信州高遠青少年自然の家)、島根県(国立三瓶青少年交流の家)、岡山県(国立吉備青少年自然の家)

日付	活動内容
6月23日	日本到着 オリエンテーション
6月24日	スポーツ交流 歓迎交流会
6月25日	松濤中学校訪問 ① SDGs探求プログラム
6月26日	国会議事堂見学 各国大使館訪問 ②
6月27日	各地方施設へ移動 (長野県・島根県・岡山県) 歴史文化施設訪問
6月28日	小学校訪問 ③
6月29日	施設プログラム ④ ホームステイ
6月30日	ホームステイ ホストファミリーとの さよならパーティー⑤
7月1日	各地方施設出発 成田市内ホテル泊
7月2日	日本出国

①松濤中学校では、招聘参加者が各クラスに分かれ、日本のお祭り体験、福笑い、書道、おはじき等、生徒が企画した遊びを通じて、英語で交流しました。参加者はお礼に伝統ダンスを披露しました。



②ミクロネシア連邦大使館では、大使より大使館の仕事についてのお話があり、普段入ることができない各執務室や屋上を案内いただきました。帰る前にはプレゼントもいただき、参加者は感激していました。

③島根プログラムでは北三瓶小・中学校へ訪問し、日本伝統の餅つきやお琴等を日本の子ども達と一緒にに行いました。岡山プログラムでは吉備高原小学校へ訪問し、レクリエーションと習字の体験を行いました。



④長野プログラムでは、高遠小学校で交流をした後、ホストファミリーの子ども達とレクリエーションと藍染め体験を行いました。参加者は世界に一つだけの藍染めハンカチができ、ご満悦でした。

⑤楽しみにしていたホームステイ。その最後にはホストファミリーとのフェアウェルパーティーを行いました。別れの場面では、3日間温かく接してくれたファミリーへの感謝と、寂しく別れを惜しむ涙が、至る所で見られました。



国会議事堂見学

派遣事業

■日程

令和6年7月29日(月)～8月7日(水) 9泊10日 ※1日目は参加者研修会(NYC泊)

■派遣先

マーシャル諸島共和国、ミクロネシア連邦チューク州、ミクロネシア連邦ポンペイ州、パラオ共和国

■参加者(小学5年生～中学2年生)、サブリーダー(高校生)、随行者※

マーシャル諸島共和国	参加者14名	サブリーダー2名	随行者6名	計22名
ミクロネシア連邦チューク州	参加者14名	サブリーダー1名	随行者6名	計21名
ミクロネシア連邦ポンペイ州	参加者14名	サブリーダー1名	随行者6名	計21名
パラオ共和国	参加者14名	サブリーダー2名	随行者7名	計23名
合計	参加者56名	サブリーダー6名	随行者25名	計87名

※随行者: 団長、リーダー、添乗員、看護師、通訳

日付	活動内容
7月29日	参加者研修会 NYC泊
7月30日	グアムへ移動 ※パラオのみ30日にパラオ着
7月31日	チューク、ポンペイ、マーシャルへ移動 オリエンテーション等
8月1日	○自然体験 ①
8月2日	○野外生活体験 ② ○異文化交流体験 ○平和学習 ③
8月3日	ホームステイ ④
8月4日	ホームステイ ホストファミリーとの さよならパーティー⑤
8月5日	グアムへ移動
8月6日	日本へ帰国
8月7日	合同学習発表会 ⑥

①シュノーケリング体験では、日本では見ることができないような透明度抜群のオーシャンブルーの海で、美しいサンゴ礁や色とりどりの魚、ウミガメをみることができました。目を見張るような海に、参加者は歓声をあげていました。



②無人島では、受入事業で日本へ訪問した参加者と交流し、レクリエーションやヤシの葉クラフト、伝統ダンスを一緒に踊るなど、沢山の活動を行いました。夜は満天の星空をみながら、初めて出来たお友達と寝食を共にしました。

③太平洋戦争の激戦地であった場所を訪問し、戦争博物館等で過去の歴史を学びました。またこの地で亡くなった3万人以上の日本人戦没者を祭る慰霊碑で、先人達への弔いと平和への誓いをたてました。



④期待と不安でドキドキの1泊2日のホームステイでは、ファミリーの子ども達とすっかり仲良くなりました。またワタリガニ等の現地食材を使った料理、現地で貴重な水でシャワーを提供してくれたり、ホストファミリーの温かいおもてなしが心に沁みました。



⑤ホストファミリーや関係者とのさよならパーティーでは、今日までの心温まるおもてなしへの感謝を伝えました。またこれまで準備・練習してきた歌や踊りの出し物を披露し、交流を深めました。最後は両国参加者が混ざって踊り、笑顔がはじけました。



⑥最終日は保護者の前で現地で感じたこと学んだことを自分の言葉で発表しました。

10日間一緒に過ごした仲間とお別れです。またいつか会いましょう！

■派遣参加者の声

- 私は常日頃から周りからどう思われるだろうと考えてしまうことが多かったが、ミクロネシアに来てみて、みんなのことなど気にしてなく、自分の人生を楽しんでいるように感じた。「自分の考えや意見を相手に伝える」「良いと思ったことはやってみる」、海外に行ってみて、より自分の人生を楽しみたいと思った。
- マーシャルでゴミの山を見て、ペットボトル等の処理ができることが、当たり前のことではないと知った。でもこの問題を僕が解決したいと思った。プラスチックを自然のものに変えて、自然分解できるものを作りたいと思った。また自分の力だけでなく、人の手も借り、エコなゴミ処理場をマーシャル諸島に建設したいと思った。
- 現地の人々の人柄の良さを感じ銘を受けた。ホームステイでは私の家族全員分のお土産をわざわざくれたり、常に私のことを最優先に考えてくれたりなど、親切心溢れる人柄に感動した。現地の人々の魅力を知ったので、海外の人とこれからさらに積極的に交流をしていきたいと思った。
- 誰かと出会う大切な場面では花や貝殻でできた冠やネックレスを付ける、親戚や姉妹など沢山の人の呼び食事をするという現地の文化や伝統に触れ、私も自分の住んでいる地域の文化を様々な人に伝えて喜ばせていきたいと思った。

■当年度までの参加者総数

受入 1,309名  →  派遣 1,923名  → 

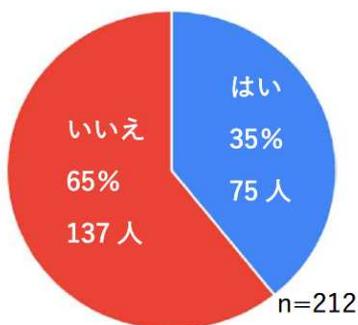
2002～2019・2023～2024	マーシャル	ミクロネシア				パラオ	合計	
		ポンペイ	チューク	ヤップ	コスラエ			
受入	子ども	248	213	216	215	202	215	1309
	随行	46	40	40	40	37	40	243
	小計	294	253	256	255	239	255	1,552
派遣	子ども	261	331	341	253	201	536	1,923
	随行	125	113	131	73	65	184	691
	小計	386	444	472	326	266	720	2,614
合計	680	697	728	581	505	975	4,166	

※サブリーダーは、随行者に含む。
 ※2020～2022年度は新型コロナウイルスの影響により、受入・派遣とも実施なし。2023年度は受入のみ実施。

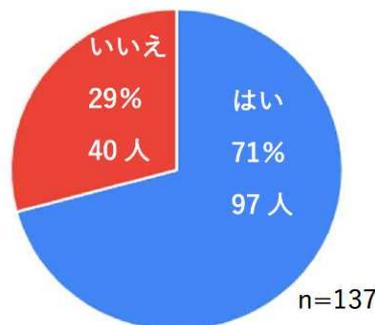
ミクロネシア事業の参加経験者は、海外留学に対して積極的です。

参加経験者の35%が、「海外留学をしたことがあるか。または、する予定があるか。」の質問に対して「はい」と回答しており、日本人留学生(大学生)の割合2.15%*を大きく上回っています。
 また、「いいえ」と回答した参加経験者のうち、71%が「今後海外留学をしてみたい」と回答しています。

海外留学をしたことがあるか
 または、する予定があるか



今後留学してみたいと思うか



出典:ミクロネシア事業諸島自然体験交流事業 日本人参加経験者に係るフォローアップ(令和3年3月)

*日本人大学生全体の留学生の割合は、下記のデータにより算出。

- ① 日本から海外への留学生数(令和4年度):58,162名(「ユネスコ統計局、OECD、IIE等における統計」令和6年5月文部科学省発表)
- ② 大学在籍日本人学生数(令和4年度):2,675,554名(「令和4年度学校基本調査(確定値)」令和4年12月文部科学省発表)